

社会福祉法人天理

第3号

平成22(2010)年8月26日発行

〒632-0018 奈良県天理市別所町715-3
TEL0743(62)0352 FAX0743(63)6367

善司

しらぐ 気 陽

御 礼 と ご 挨 捶

天理養徳院開設百周年記念式典は、真柱様婦人会長様のご臨席のもと、荒井正吾奈良県知事はじめ多数の来賓をお迎えして盛大裡に勤め終えることができましたことをここにご報告し、ご協力いただいた各位に御礼を申し上げます。

式典において真柱様は「天理養徳院に在院したら将来養徳院で育った誇りをもって巣立つことができるよう、世話をする者が揺るぎない信仰信念を持って子どもたちに接して頂きたい」とまず保育士のあり方をお示しくださいました。そして続いて「教内の福祉活動の範となるように」とのお言葉を頂きました。

一つ目のお言葉につきましてはなるほどの人を目指す努力を今後より一層続けてまいりたいと存じます。また、二つ目のお言葉につきましては、改めて思案させていただいていたところであります。養徳院は百年の歴史を刻み、お道の福祉活動の先頭を歩んできました。その中で、先輩たちが教えられる理念をどのように実践し、具体化するかということを懸命につとめられた結果が今日の姿です。

一歩先を進む養徳院が過去現在未来をつなぐ道を正しく歩むこと、これが範を示してゆく道ではないかと思い至りました。これを機に元にたちかえり布教部福祉課との連携を一層深めていきたいと考えております。

そして、初代真柱様のお詠み頂いたおうた「人の子も 我子もおなしころもておふしたててよ このみちの人」の実践につとめてまいります。また朝起き・正直・働きの三つの信条を育つ側、育てる側双方の信条としてつとめさせていただきたいと存じます。

現在はまことに厳しい先行き不透明な世情にあって、児童処遇も難問が山積しております。しかし、年限に相応しい成人を目指すためには、式典当日真柱様がご揮毫下さいました「陽気ぐらし」のお言葉通り、明るく歩みを進めることが肝要とお示し頂きました。まことにありがたいことと存じます。

養徳院関係者一同このお言葉を真摯に受け止めさせて頂きます。そして、日々を感謝の心をもって歩ませていただくことをお誓い申し上げ、ご挨拶と致します。

社会福祉法人天理 理事長
梅 谷 忠 昭

天理養徳院開設百周年記念式典

真柱様お言葉

本日、天理養徳院開設百周年の記念式典が開催されましたことを心よりお慶び申します。また、ご来賓の方々には、何かとお忙しい中、ご臨席を頂き、まことに有難うございます。謹んでお礼申し上げます。そしてまた、お集まりの関係の皆様方の、日々の努力をお勞い申し、養徳院の歴史と伝統に思いをはせながら、心に浮かびますことをお話して挨拶と致したいと思います。

天理養徳院は、明治四十三年四月一日、家庭的に恵まれない子供達を受け入れ、親に代わって、子供達を立派に育て上げることを目的に、天理教養徳院として開設されました。初代真柱様は、開設に際し、「人の子も 我子もおなしこころもて おふしたててよ このみちの人」と親心こもる激励のお歌を詠まれ、養徳院の使命と、その子供達の育成に携わる者の心構えを、優しく明快にお論しになりました。

用地の買収や建物の建設は、教会本部で進められましたが、開設以後の維持経営は、同時期に発足した天理教婦人会が担当することになり、婦人会の初代会長中山たま様が、養徳院の初代院長に就任され、以後、二十六年の長きに渡り、率先垂範して子供達の育成に当たり、養徳院の礎を築かれました。

当時の婦人会の人々は、初代真柱様の思召しを胸に、初代会長を芯に養徳院の活動に全力を挙げて取り組みました。教祖のひながたを目標に、我が子に対するのと同様に、温かい親心と、揺るぎない信仰信念をもつて、子供達を丹精することが、生み育ての徳分を活かして陽気ぐらしの台となることを目指す婦人会員の自負につながり、ひいては自らの喜びとなることを身をもつて実感されたと思うのです。

開設以来百年、初代真柱様の思召しを基本理念として、天理養徳院の歴史は築き上られてきました。時代の変遷とともに、天理教養徳院から天理養徳院に

名称も変わり、運営の主体も婦人会から教会本部へ、更には社会福祉法人に移管され、場所も移り変わり、関連する法の整備に伴う制度上の変革を経ながらも、何時の時代にあっても人々は、教えられる理念をどのように実践し、具体化するかということに心を碎かれたのであります。

例えば、天理養徳院では、当初から施設の中の生活単位を少人数にした小舎制が採用されるとともに、保育士も共に住み込んで寝食を共にし、きめ細やかな親身の世話取りをすることによって、一般家庭と同様の情愛を子供達が自然に感じができるよう配慮されているのであります。しかし、混沌の度を一層深める世相を反映して、養徳院に関する事情も昔とは違つて、より複雑な問題が生じているようにも思います。入院児に関しても、開設当初の児童のほとんどが教内関係者子弟であったのとは異なつて、現在、在院する児童は信仰的には、お道に無縁な人の子供が多いのではないかと思います。また、親子の関係にしても、以前の日本社会が当然としていた親孝行という言葉もあまり聞かれなくなり、絆も弱いものになつてしまつたかのようにも思われます。

このように、社会的に親子関係が希薄になる中、若い保育士さんが子供達の世話を取りをして、信仰的基盤を共にしない親の理解と信頼を得ることの困難さは並大抵なことではないと思います。しかしながら、縁あつてお世話をするようになった子供の上から思案するとき、周囲の状況が難しいものであつても、天理養徳院に在院したら、将来、養徳院で育つた誇りをもつて巣立つことができるよう、世話をする者が揺るぎない信仰信念を培つて、子供達に接して頂けたのであります。

私達は、「なるほどの人」になるようにと教えられているのであります。なるほどの人とは、傍から見てそれらしい人、その人の言動が、その人の立場に相応しい人を言うのだと思います。先生なら先生らしい人、政治家なら政治家らしい人であります。ですから、養徳院の場合は親代わりを勤めるに相応しい人、保育士として信頼するに相応しい人になるということになります。

更に言えば、保育士らしくといふこともさることながら、教祖の道を歩む道の子として、教祖の教え子らしく、道の子らしく歩むということであります。教祖の教え子らしく歩むとはどういうことかと言えば、教祖のひながたに照らして思案し、教祖の思召しに適うような通り方を心がけることであります。私達は、教祖から、日夜変わることのなくご守護下さる親神様の親心に応え

る報恩感謝のひのきしんの生き方を教えて頂いているのであります。しかも、親神様、教祖の膝元に起居させて頂いているのであって、何時でも自分の心一つで親神様、教祖の元に足を運んで、日頃のお札を申し上げることができます。

また、養徳院では、基本理念を日々に実践するための指針として、「朝起き、正直、働き」の三つの角目を生活信条に掲げていると聞いております。これは、子供達に対するだけでなく、養徳院全体の指針、申し合わせであろうと思うのであります。這えば立て、立てば歩めと、倦まず弛まず人々を導かれた教祖のひながたを心において、自らが教えを日々に実践しつつ、根気よく親身になって育てる努力を続けるところに、養徳院で育つ喜びを味わってくれると思うのであります。

先ず、自らが率先して信仰心を養い、成人しようという姿勢を持つことであります。育てる者が世間並みの考えに流されて、神一条の精神にもとつていては、親神様のご守護は頂戴できないのであります。繰り返しますが、大切なことは歴代の先輩が培ってきた、育てる者の神一条の信念と実践であります。

積み重ねられた養徳院の実績を基に、平成十七年に社会福祉法人天理が設立されたのに伴い、現在は、児童養護施設天理教三重互助園をはじめ、児童家庭支援センター天理、指定障害福祉サービス事業所など、更には、めばえ横浜保育園と共に、天理養徳院も従来の宗教法人所管の施設から社会福祉法人所管の施設となりました。以前に比べて、形は整い、活動の幅は広がりました。公の支援も一層手厚く頂戴できるようになりました。それだけに、ついつい世上の思案に流され、神一条の信念、元一日の精神が、ないがしろにされはしないか、一抹の不安も覚えるのであります。

事を進めるに当たって、元を尋ね、そこから学ぶことは大切であります。特に節を自覚して、節から芽の出るご守護を願うときほど、元に返つて歩み直さなければならぬと思うのであります。どうか、設立百周年の節目を吉祥に、節から芽の出る喜びをご守護頂き、世の人々の期待に応えられる養徳院になるように、また教内の福祉活動の範となるよう、設立の精神に根差した地道な努力を、一手一つに積み重ねて下さいますようにお願ひ致しまして、挨拶と致します。ご清聴有難うございました。

(文責・梅谷忠昭)



記念式典でお言葉を述べられる真柱様

天理養徳院長挨拶（要旨）

宮 崎 濡

本日は真柱様、婦人会長様をお迎えし、天理養徳院開設百周年記念式典を執り行わせて頂けることは、児童並びに職員一同慶びに堪えません。また、お忙しい中にも関わらず、奈良県知事・荒井正吾様をはじめ、大勢の御来賓の方々のご臨席を賜り、私ども関係者一同光榮に存じます。本日は、誠に有り難うございます。

さて、天理養徳院の開設は明治四十三年四月にさかのぼります。開設にあたっては、本教が教団として独立するための請願運動と深く関わっています。以後、現在の様々な教団の組織を生み出す母体としての役割を果たすことになりました。

創設者である初代真柱・中山眞之亮様は、「人の子も 我子もおなしこころもて おふしたててよ このみちの人」と、天理養徳院に携わる者への心構えをお示しくだされました。お預かりする子ども達を「ひとの子」としてではなく、「我が子」と同じよう育ててほしいと、「たすけ一条の我が事」として、お創め下さいました。この思いがあつたらからこそ、百年の歳月を重ねて子ども達の養育に勤めることができたのです。また、天理教の福祉活動への広がりも見せていただき、福祉課と合同で実行委員会を設けて、百周年記念式典を賑やかに勤めることができました。

養徳院初代院長中山たまへ様は、創設者の思いを受けて、温かい家庭の雰囲気の中で子ども達を育てたいとの親心から、家庭舎をお造り下さいました。その思いを歴代院長はじめ、先輩の職員の方々が



宮崎院長は伝統を引き継いでいくとの決意を述べた

守ってこられて、今日に至っています。また先人たちが、養徳院の基本信条としてお定め下された「朝起き、正直、働き」は、日々生活して行くための基本の教えとして受け継いでこられています。

『稿本天理教教祖伝逸話篇』には、教祖の言葉として「朝、起こされるのと、人を起こすのとでは、大きく徳、不徳に分かれるで。蔭でよく働き、人を褒めるは正直。聞いて行わないのは、その身が嘘になるで。もう少し、もう少しど、働いた上に働くのは、欲ではなく、真実の働きやで。」とあります。百周年のこの旬に、まず「朝起き」を身に付けさせる努力を始めたいと、日課の一環として、朝礼としての「朝勤め」を職員児童とともに勤めています。「朝起き、正直、働き」が院内に脈々と息づいていくよう、努力をして参ります。

時代の変遷に合わせ、全ての人が生きている喜びを実感できるような陽気ぐらし世界の実現のため、この場を借りてお礼を申し上げたい方がいます。この方は、匿名で子ども達へ励ましの言葉を添えて送つてくださいます。一月に来たものですが、このように書いていただいています。「年も新年のお正月を迎え、皆それぞれの考え方に向かって、大手を振つて進んで下さい。私も今年で九六歳となりました。体調に留意しながら励んでおります。御互いに元気に頑張りましょう。」これについては、子ども達にも披露して喜びを共にしています。

宗教法人の行う公益事業としての福祉から、平成十七年四月に福祉活動を主たる目的とする社会福祉法人天理の設立、移行致しました。

もちろん、本院の存在意義は、教祖の教え、創立者の思いを離れてはありえません。法人の定款の目的に「天理教の教えに基き、多様な福祉サービスが、その利用者の意向を尊重して、総合的に提供されるよう云々」とありますように、養徳院を一層 地域社会の資源として、信頼される施設を目標に惜しみない努力を続ける所存です。

最近感じることですが、心のあり方には安定した心の働きがあると思います。それは「たがい たてあい たすけあいの心」だと思います。どうしたら人に喜んでもらえるか、人が喜ぶ姿を見て自分も喜ぶという心の使い方です。私たちの心にも、自分で安定した心に立ち直る力を、お与えいただいていると思うのです。

様々な環境にあつた子ども達でも、きっと自分の力で本来の自分を取り戻して行く力を、神様から授かっているのだと信じ、私たちは辛抱強く手助けをさせていただかねばならないと思うのです。そのため保護者の協力のもと、あらゆる関係機関の力を借りし、また研修を通してより専門的な技術を習得し、心を一つにそろえて努力を致しているところです。

この場を借りてお礼を申し上げたい方がいます。この方は、匿名で子ども達へ励ましの言葉を添えて送つてくださいます。一月に来たものですが、このように書いていただいています。「年も新年のお正月を迎え、皆それぞれの考え方に向かって、大手を振つて進んで下さい。私も今年で九六歳となりました。体調に留意しながら励んでおります。御互いに元気に頑張りましょう。」これについては、子ども達にも披露して喜びを共にしています。

本日は、本院出身者で組織する「天理養徳院陽陸会」から、大勢の方がお集まり下さいました。このために、思いを込めて御手伝いに駆けつけて下さいました方々、また関連施設の方々も総出でご協力をいただきました。有難うございました。

福祉課をはじめとして、教内の福祉関係者の方々が、今年一年を「お道の福祉活動百年」の年として、より飛躍を遂げようとお進め下さっていることを考えますと、天理養徳院の役割の重大さをひしひしと感じています。役割の重さを思えば思うほど、創設者の思いに立ち返り、初代院長より守り通してきた「朝起き、正直、働き」の伝統を、しっかりと引き継いで参りたいと存じます。この点を堅くお誓い申上げまして私の挨拶と致します。

卒院者代表

深 谷 守

本日は天理養徳院が開設百周年を迎える、卒院者を代表して、心よりうれしくよろこびの御札を申し上げます。

先輩達が六十四年前に卒院者と、お世話になつた職員・保母・保育士の方々をもつて陽陸会を結成いたしました。以来毎年この桜の季節にここ養徳院のこの講堂で総会を開催しております。本日の式典には遠くブラジルや台湾、日本全国から百七十名以上の会員が喜び勇んで参集致しました。私達陽陸会員は、卒院後も、お育ていただいた養徳院にふるさとを思い、年二回発行の陽陸会報で会員の近況や投稿を掲載し絆を深めております。

ところで私は、母が昭和二十八年の十月に亡くなり、父は結核で療養中であつたため、昭和二十九年

の二月五歳の時から、昭和四十年三月の中学校卒業まで、十一年間当院で育てて頂きました。養徳院の開設五十周年の時は小学五年生で記念写真の右下におさいました。在院時代は大怪我や、病気の深谷守として、小児結核、痩弱、ジフテリア、胃癌等を患いました。当時の受け持ちの保母さん等の心中を察すると、どれほどであったかと、自分が子どもを授かって分からせて頂きました。養徳院での生活は朝起き・正直・働きの三信条と、「私達は親神様の子供です。正直・素直明るい子供、みんな仲良く助け合い、強く元気にいきましょう」と毎朝唱和していましたが、その時は正直わかりませんでした。が世の中に出て初めてこの大きさを身をもつて理解できました。

当時は、いやだつたこと、淋しかつた悔しかつたことが多々あつた筈ですが、ブールや、お花見・お盆やお正月など楽しかったことのほうが想い出として残っています。卒業生が養徳院へ里帰りされた爽とした姿をみると、自分の未来をみているようでした。昭和三十七年の松山のお母さんは「盆や正月に大勢帰つてきてくれますと、それこそ一年中で一番忙しいような気持ちですが、大きく立派になつた姿を見るとき、誰かに誇りたいようなうれしさで一杯です。帰つてくると思っていた子が帰らないと、やっぱり職業お母さんのかとひがんで淋しくなります。」と言つておられ、私も卒院後は高校、大学、結婚と節目節目で、ふるさと養徳院で、保母さんや職員の方々に、陽陸会の先輩達に何かと相談に乗つていただきました。

今日の夫婦とも健康で、孫二人をお与え頂く結構さは、児童時代の養徳院の実の親にも勝る親心のお陰と感謝致しております。この思いは私一人でなく、今日参加された、五十年史の発行に携わった東京の山口治先輩は「今日の我が身の存在も、大勢の方々のお世話をりと、おぢばでお育て頂いたお陰と感謝

しております。」と、また、五十周年の時の院児代表で謝辞を述べた、大阪市で理容業を営む鳥越桂子先生も「今の私の年齢でこんなに元気で仕事ができるのも、養徳院時代のお陰だと感謝しております。」と述べておられ、大多数の会員の本意でもあると確信しています。

我々陽陸会員は、この恩を終生忘れることなく次の時代へ継承し、それぞれが持ち場立場で社会へ恩返ししていくことが努めであると、こころ新たにしております。

今後とも、初代真柱様の「人の子も 我子もおなしこころもて おふしたててよ このみちの人」のお心と、初代院長様の実の親以上の大きな親心を、いつまでも変わることなく、続けてくださることを願つてお礼の言葉とさせて頂きます。誠にありがとうございました。



卒院者の代表として謝辞を述べる深谷守氏

児童代表表

秋山恵美

だことを生かし、ここを巢立一人として社会に貢献できるよう努めさせて頂きます。全児童心を揃えて通させていただきたいと思います。

この時を新しい第一歩とするべく、決意を新たに明日へ向かうことを誓い児童代表の挨拶とさせて頂きます。

春の暖かい日差しを感じる今日の良き日に天理養徳院開設百周年記念式典が盛大に行われますことは私達児童にとってこの上ない喜びです。また真柱様、婦人会長様、県知事様をはじめ、多くの来賓の皆様方、先輩の皆様方の御臨席をたまわり、共に祝い、喜んで頂けますこと、誠に光栄であり、児童を代表してお礼申し上げます。

天理養徳院は開設以来「朝起き・正直・働き」の信条教育を行い、多くの伝統が築き上げられまた、多くの歴史を刻んできました。今現在、温かいご飯が食べられること、元気に学校に通えること、自分の居場所があることなど、衣食住に何不自由ない生活ができますことを幸せに感じます。私自身、幼い頃からここで育つてきました。その中で院行事の一つである、ふれあい広場では地域の人々に感謝する場として模擬店を行います。そしてみんなで協力する中で仲良く助け合うということを感じました。

幼い頃にはおもちゃなどを乱暴に扱ったときには、担当のお母さんから注意を受け、ものを大切にするということを学びました。この十三年間生活してきた中で、沢山の人と繋がり、また支えられて毎日過ごさせて頂けることに感謝しています。

私は将来、大学に進学したいと思っています。そこで多くのことを勉強していくたいです。例えば、世界のことや国際社会のことなどです。そこで学ん



天理教三重互助園新園舎竣工

竣工式

一、御禮のおつとめ

一、理事長挨拶

天理教表統領

一、来賓祝辞

平成二十一年九月十二日、天理教三重互助園の新園舎が竣工し、竣工式を執り行わせて頂きました。

地鎮祭 四月 四日
竣工式 九月十二日

施工業者 大和ハウス工業株式会社

建築面積

五四八・一一m²

延床面積

八一三・四二m²

主要構造

重量鉄骨造

総工費 一億四五三〇万〇一五三円



地鎮祭・竣工式お祝い（敬称略）

三重県児童（者）福祉施設協議会、みどり自由学園、真盛学園園長
本弘東午、津市たるみ児童福祉館、寺沢修平、社会福祉法人明照淨
済会 奥田治、社会福祉法人里山学院、名張養護学校園、児童養護施設
聖マッテヤ子供の家、アパティア福祉会、白梅寮 三重教区長、橋
詰義和、社会福祉法人白鷺園、松尾京一、天理教社会福祉施設連盟、
三重教区主事会、西川道壽、森幹郎、三重教区書記 小林昭仁、修
道小学校 西川恒夫、学校法人修道幼稚園 大熊信行、株式会社大
弘通信システム、牛幸、鳥勢、坂田魚店 小岸建設 小岸勝司、伊
勢米穀企業組合明倫営業所、天理教真勢分教会、天理教三重教務支
庁、天理教紀尾分教会、天理教相野谷分教会、天理教東保分教会、天
理教矢野分教会、天理教勢住分教会、三重県共同募金会

平成二十一年十二月 建築施工業者が大和ハウス工業株式会
社に決定

平成二十一年二月 建築確認申請

四月 地鎮祭

五月 淨化槽設置工事

六月 目地確認

七月 鉄筋組立

八月 配管工事

九月 建具枠取付

十月 天井貼
床仕上
十一月 フェンス門扉取付

飯降 政彦 様
宮本 隆弘 様
森下 隆生 様
堀川 清 様

森下 隆生 様
堀川 清 様

森下 隆生 様
堀川 清 様



めばえ横浜保育園起工

平成二十一年十二月二日、めばえ横浜保育園の起工式が執り行われました。



起工式式次第
【殿内の儀】
一、御願づとめ

一、親神様、教祖、祖靈様遙拝

一、祓詞奏上

一、大麻行事

一、塩水行事

一、祭文奏上

一、祭員列拝

一、来賓並びに関係者礼拝

一、鍵入れ行事

起工式お祝い（敬称略）
飯降政彦、飯田英磨、大内康弘、高野通博、本金川分教会、
東京天理会館、神奈川教務支庁、松栄運輸株式会社、保護者
者の会



建替工事スケジュール

平成二十一年

五月

地質調査

設計業者が株式会社新環境設計に決定

六月

土地調査

七月

横浜市役所に於いて基本設計ヒアリング

八月

隣接地との地境の確認

九月

分園（本金川分教会）にて保育園説明会開始

十月

建設業者が大洋建設株式会社に決定

十一月

園舎建築第一回総合定例会議

平成二十二年

十二月

一期工事既設建物解体作業着手

第二回総合定例会議

既存建物の改修工事着手

一月

擁壁解体工事着手

一期既存擁壁解体工事着手

二月

一期新設擁壁掘削工事着手

擁壁立上り

本体基礎配筋作業着手

第一回中間検査（基礎工程）

基礎コンクリート打設

地足場解体

鳩山総理來訪——平成二十二年三月十三日

中島新院長就任挨拶

みなさんこんにちは、五月一日より天理養徳院院長を拝命いたしました中島道治です。どうぞよろしくお願ひいたします。

養徳院開設百周年記念、「お道の福祉活動百年」の年に十一代目として迎えていただいたことに歴代の先輩方の培つてこられた歩み、また、「親の思い」を深く感じいるのであります。

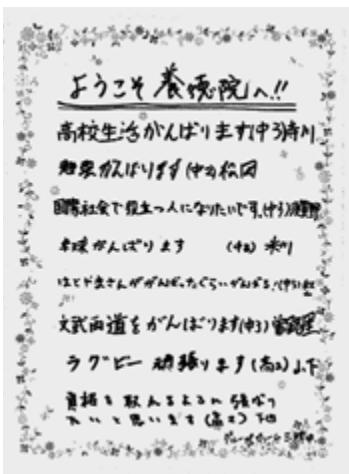
百という字は「白紙に戻り一より始める」と教えていただき通り、創設の元一日を忘れず過ごさせていただくことを念じております。

また、百周年記念式典における、真柱様のお言葉に『朝起き、正直、働き』の三つの角目は：子供に対するだけでなく、養徳院全体の指針であろうと思うのであります。』と私たちの生活信条をも確認くださり、また、「大切なことは歴代の先輩が培つてきた、育てる者の神一条の信念と実践であります。』と、育てる者の立場を明示くださいました。

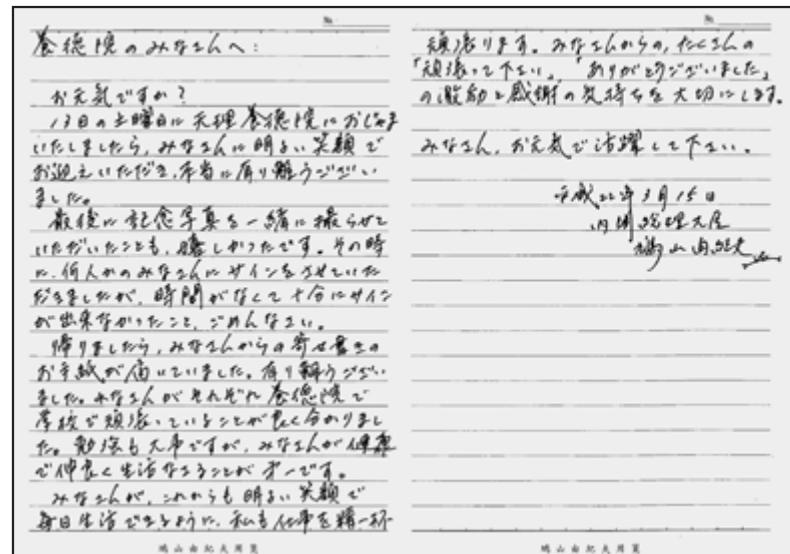
そして、「教内の福祉活動の範となるように」と、養徳院の教内での立場を明確にお示しくださいました。

今日、このお言葉をしつかりとお受けして、改めて養徳院の生活を振り返えりますと、「朝起き、正直、働き」を生活の指針に三歳児から十八歳まで、六十九名の児童が全員揃つての朝勤め。「声は肥やで」と云われるよう、一人ひとりへの声かけ。また、働くことは「はたはた楽すこと」と、常に笑顔での挨拶を養徳院全体で取り組んでこられた実践に震える喜びを感じながら、いま、朝夕の拍子木を合わせております。

感謝・感謝。



院児から総理に宛てた手紙



鳩山総理直筆の手紙



施設報告

天理養徳院は、社会福祉法人天理における運営方針に基づいた永年の児童養護実践を生かし、養護、育成または厚生を要する児童に対し、正常な社会人として自立した生活を送ることがで
きるように援助することを目的としています。

何らかの家庭崩壊が原因で入所していく児童の多くは、精神的にも身体的にも不安定な状態にあり、これらの児童に対して宗教的な和気に満ちた雰囲気の中で、「朝起き、正直、働き」を基本信条として、生活指導、学習指導を通して充実した養護・育成を図ることを目指しています。

平成二十二年四月創立記念日

五月
六月
陽陸会総会
総合防災訓練
天理小学校との交流会
天理中学校との交流会

八月 七月 体育祭 三日間の開催
山の辺幼稚園との交流会
山の辺小学校との交流会
天理北中学校との交流会
山の辺幼稚園との交流会
山の辺小学校との交流会
天理北中学校との交流会

本島海水浴
球技大会
学生生徒修養会

九月
十月
十一月

今では、子どもたちの思考や生活の向上に手応えを感じられることから、更なる養護と自立支援に意欲を持続させたいと考えています。

施設の目的が児童の養護と自立支援を主とすることから、このことに役立つ諸要素の実践メニュー（セカンドステップ、コモンセンス）のプログラムを有効に活用してきたことは、新しい住空間のご守護と併せて成果が見られるようになつたこと感謝の思い多とす るものであります。

新園舎は、共用棟を中心、左右に二棟を形成し、一方には中高生の男子を他方には幼児と小学生を階下とし、二階を中高生女子にして、それぞれをグループとして新しく担当制を組み家庭的な雰囲気を濃厚にして関係性を深め安全・安心の確保に成果が見られるよう努めました。

社会福祉法人天理へと運営母体が変わった時を機に新園舎の建築を急いでおりましたが、九月十二日に慶びの竣工となり、長い年月お世話になりました三重教務支庁との相住まいに別れを告げることとなりました。

兒童養護施設
天理教三重互助園

十一月
伊勢警察慰問

お餅つき
お節会団参
いちご狩り
ちびっこマラソン大会
春の学生おぢばがえり

十一月
十二月
お誕生会（十一月生まれ）
園舎建替工式
生活発表会
お誕生会（十二月生まれ）
おもちつき

保育所 めばえ横浜保育園

保育所 めばえ横浜保育園

され、新たに社会福祉法人天理めはえ園として浜保育園として今に至っております。今年度は念願の園舎建替工事に着工することとなり、十二月二日起工式を執り行わせていただきました。平成二

十三年二月竣工予定で
事の最中であります。

子ども達が心身ともに健やかに成長発達し、やがて社会の一員として、ま

れました。障害児の状況並びにその置かれている状態に応じて必要な保護を

指定障害福祉サービス事業所
なごみ

本年度は二階堂養護学校の学童を中心に、地域の学校に通われている特別支援を要する学童、また就学前の幼児を県内十の市町村から利用の受け入れを行い、京都市、日光市からも受け入れました。障害児の状況並びにその置かれている状態に応じて必要な保護を適切に行い、障害児及びその家庭の支援を図る事ができました。本年度契約者数は二十三名あり、総契約者数は百名となりました。

平成二十一年度

日中一時支援件数 三千四百二十五件

児童家庭支援センター てんり

今年度は、奈良市、天理市を始めとする県内十三市町村及び県外在住の児童及び保護者に対して、その相談に応じ、助言や指導を行いました。その際には、こども家庭相談センター等の児童福祉関係機関をはじめ、医療、教育、保健等の各機関との連絡調整を総合的に行い、これらの地域の児童、家庭の福祉の向上に資することができました。

平成二十一年度

相談受理件数 三百件

児相委託指導 十件

専門援助講座

第一回

講演演題

「児童虐待の現状と課題
—虐待のシグナルを見過ごさないた
めに—」

講師 廣岡 幸夫氏

(奈良県中央こども家庭相談センター
こども支援課主幹)

日時 平成二十一年十月一日(金)

参加人数 六十名

第二回

講演演題

「養育に困難を抱えている親へのサ
ポート—親自身の変化を願つて—」

講師 早樺 一男氏

(京都府立淇陽学校長)

日時 平成二十二年一月二十九日(金)

参加人数 九十八名

匿名の寄付者判る

の方に、後々養徳院も鉄筋で立て直し
たと聞いて安心しました。

若い頃は「苦労」という言葉で済む
ようなことではなく、とにかく食うや
食わざでした。私には多くの兄弟がい
ましたが、私は後妻の子の為、のけ者
にされました。大事してくれた人は、
早く亡くなりました。そうなるとお
金のある家でしたので、寄り付かない
ようにのけ者にされました。四歳のこ
ろから一人ぼっちでした。自分で茶を
沸かし食事をとりました。周りに住む
人からも「後家の子」と呼ばれ、
名前で呼ばれるはありませんでした。

ふぱく)。入信のきつかけは、奥さん
との結婚。以来、ひのきしんやおぢば
がえりにも度々参加されるようになっ
たということです。

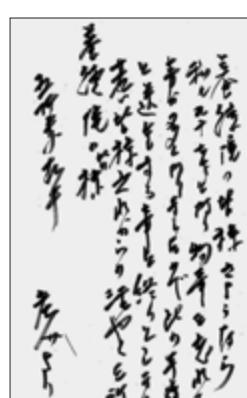
かつたら絶対になれないですね。コ
ヒーも飲まないです。百歳まで生きた
らお茶でお祝いしようと思っています。
養護施設は日野さんのような方から
の暖かい支援によって成り立っている
ことを改めて実感させられました。
ご支援に深く感謝するとともに、い
つまでもお元気でおられる心よ
り願っております。(記・演口)

六日「九七歳にもなり、これで終わり
にしたい」との手紙を頂きました。そ
こで消印から愛媛教区を通じて探し
ました。すると一ヶ月程経った頃、判明
したとの連絡がありましたので、百周年
記念式典で感謝状を贈らせて頂いた
方と同様に、理事長から感謝状の贈呈
をするため訪問させていただき、お話を
を聞かせていただきました。名前は日野元一さん(徳能分教会よ
ふぱく)。入信のきつかけは、奥さん
との結婚。以来、ひのきしんやおぢば
がえりにも度々参加されるようになっ
たということです。

日野元一さん談話

教祖百年祭の頃、度々ひのきしんに
行かせて頂いて、その際に養徳院を見
ました。私自身親がなく生きてきたも
ので、様子を見てなんとかならないだ
ろうかと思いました。しかし、私は大
金を持つていませんので、飴玉一つで
も買って皆に食べてもらえれたらと思
い、送り始めたのです。年齢のため、
これ以上はもうできませんので、先日
これで終わりにしたいとのお断りの手
紙と一緒に送らせていただきました。

私はこどもおぢばがえりにもよく参
加させていただきました。私がいかな
かったらおぢばがえりができないので
はないのか、といえるほど色々なこと
をさせていただきました。



5/26に頂いた手紙



平成21年度決算報告

貸借対照表

(平成22年3月31日現在)

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減	科 目	本年度末	前年度末	増減
流動資産	54,511,879	60,013,257	△ 5,501,378	流動負債	23,924,063	23,295,633	628,430
固定資産	1,155,363,934	1,000,964,113	154,399,821	固定負債	125,974,009	16,977,981	108,996,028
基本財産	818,922,532	692,259,825	126,662,707	負債の部合計	149,898,072	40,273,614	109,624,458
その他の固定資産	336,441,402	308,704,288	27,737,114	純資産の部			
				基本金	848,291,084	849,439,404	△ 1,148,320
				国庫補助金等特別積立金	20,492,858	259,375	20,233,483
				その他の積立金	224,370,000	267,415,322	△ 43,045,322
				次期繰越活動収支差額	△ 33,176,201	△ 96,410,345	63,234,144
				純資産の部合計	1,059,977,741	1,020,703,756	39,273,985
資産の部合計	1,209,875,813	1,060,977,370	148,898,443	負債及び純資産の部合計	1,209,875,813	1,060,977,370	148,898,443

脚注：減価償却費の累計額 897,971,691円

事業活動収支計算書

(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

	勘定科目	本年度決算	前年度決算	増減
事業活動 収支の部	自立支援費等収入	4,159,159	4,028,049	131,110
	利用料収入	909,000	659,500	249,500
	措置費収入	314,076,299	296,615,410	17,460,889
	運営費収入	95,238,350	96,953,590	△ 1,715,240
	私の契約利用料収入	2,537,600	2,740,410	△ 202,810
	補助事業収入	8,400,190	8,020,269	379,921
	経常経費補助金収入	67,567,140	65,026,766	2,540,374
	寄付金収入	54,369,627	32,800,400	21,569,227
	雑収入	15,457,181	13,645,791	1,811,390
	国庫補助金等特別積立金取崩額	723,052	37,500	685,552
	事業活動収入計	563,437,598	520,527,685	42,909,913
	人件費	344,062,258	322,462,444	21,599,814
事業活動 支出の部	事務費支出	51,922,404	50,391,857	1,530,547
	事業費支出	109,996,995	109,791,111	205,884
	減価償却費	30,781,683	52,678,672	△ 21,896,989
	引当金繰入	2,501,925	2,355,768	146,157
	事業活動支出計	539,265,265	537,679,852	1,585,413
	事業活動収支差額	24,172,333	△ 17,152,167	41,324,500
事業活動 外収支の部	受取利息配当金収入	580,418	891,185	△ 310,767
	経理区分間繰入金収入	50,098,293	12,594,022	37,504,271
	事業活動外収入計	50,678,711	13,485,207	37,193,504
	経理区分間繰入金支出	50,098,293	12,594,022	37,504,271
	事業活動外支出計	50,098,293	12,594,022	37,504,271
	事業活動外収支差額	580,418	891,185	△ 310,767
経常収支差額		24,752,751	△ 16,260,982	41,013,733
特別 収支の部	施設整備等補助金収入	21,178,410	0	21,178,410
	施設整備等寄付金収入	700,000	67,372,592	△ 66,672,592
	固定資産売却益	0	20,000	△ 20,000
	国庫補助金等特別積立金取崩額	221,875	0	221,875
	特別収入計	22,100,285	67,392,592	△ 45,292,307
	基本金組入額	0	67,372,592	△ 67,372,592
	固定資産売却損・処分損	6,634,124	61,385	6,572,739
	国庫補助金等特別積立金積立額	21,178,410	0	21,178,410
	特別支出計	27,812,534	67,433,977	△ 39,621,443
	特別活動収支差額	△ 5,712,249	△ 41,385	△ 5,670,864
当期活動収支差額		19,040,502	△ 16,302,367	35,342,869
繰 越 活 動 取 支 差 額 の 部	前期末繰越活動収支差額	△ 96,410,345	△ 6,607,978	△ 89,802,367
	当期末繰越活動収支差額	△ 77,369,843	△ 22,910,345	△ 54,459,498
	基本金取崩額	1,148,320	0	1,148,320
	その他の積立金取崩額	102,194,948	32,150,000	70,044,948
	その他の積立金積立額	59,149,626	105,650,000	△ 46,500,374
	次期繰越活動収支差額	△ 33,176,201	△ 96,410,345	63,234,144

資金収支計算書

(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

	勘定科目	予算	決算	差異
経常活動による収支	自立支援費等収入	4,100,000	4,159,159	△ 59,159
	利用料収入	1,100,000	909,000	191,000
	措置費収入	311,400,000	314,076,299	△ 2,676,299
	運営費収入	94,520,000	95,238,350	△ 718,350
	私の契約利用料収入	2,690,000	2,537,600	152,400
	補助事業収入	8,500,000	8,400,190	99,810
	経常経費補助金収入	66,180,000	67,567,140	△ 1,387,140
	寄付金収入	54,200,000	54,369,627	△ 169,627
	雑収入	14,120,000	16,692,422	△ 2,572,422
	受取利息配当金収入	630,000	580,418	49,582
	経理区分間繰入金収入	50,500,000	47,947,368	2,552,632
	経常収入計	607,940,000	612,477,573	△ 4,537,573
支出	人件費	349,190,000	345,297,499	3,892,501
	事務費支出	62,660,000	54,424,329	8,235,671
	事業費支出	115,840,000	109,996,995	5,843,005
	経理区分間繰入金支出	50,500,000	47,947,368	2,552,632
	経常支出計	578,190,000	557,666,191	20,523,809
	経常活動資金収支差額	29,750,000	54,811,382	△ 25,061,382
施設整備等による収支	施設整備等補助金収入	22,200,000	21,178,410	1,021,590
	施設整備等寄付金収入	700,000	700,000	0
	施設整備等収入計	22,900,000	21,878,410	1,021,590
	固定資産取得支出	236,820,000	233,864,922	2,955,078
	施設整備等支出計	236,820,000	233,864,922	2,955,078
	施設整備等資金収支差額	△ 213,920,000	△ 211,986,512	△ 1,933,488
財務活動による収支	借入金収入	120,000,000	120,000,000	0
	積立預金取崩収入	98,880,000	102,194,948	
	財務収支計	218,880,000	222,194,948	△ 3,314,948
	借入金元金償還支出	12,000,000	12,000,000	0
	積立預金積立支出	59,200,000	59,149,626	50,374
	財務支出計	71,200,000	71,149,626	50,374
	財務活動資金収支差額	147,680,000	151,045,322	△ 3,365,322
	予備費	0	0	0
	当期資金収支差額合計	△ 36,490,000	△ 6,129,808	△ 30,360,192
	前期末支払資金残高	36,490,000	36,717,624	△ 227,624
	当期末支払資金残高	0	30,587,816	△ 30,587,816

社会福祉法人天理

苦情解決委員会

天理養徳院・なごみ・センターてんり

平成二十一年度	採用(採用順)
佐々木百理	保育士(天理養徳院)
久保田百恵	保育士(天理養徳院)
片山裕子	児童指導員(天理養徳院)
中島道治	

役員・評議員
総裁 飯降 忠昭
理事長 梅谷 信雄
理事 永尾 靖治
評議員 篠森 高見 宇造 春野ちよゑ
宇野三千男
下庄村太郎
飯田文昭 深谷忠道 鹿尾辰文 梅谷忠昭 永尾信雄
篠森靖治 高見宇造 春野ちよゑ
宇野三千男
下庄村太郎
飯田文昭 深谷忠道 鹿尾辰文 梅谷忠昭 永尾信雄
篠森靖治 高見宇造 春野ちよゑ
宇野三千男
下庄村太郎
飯田文昭 八木三郎 杉山公康
萱間俊男 飯降矢納 濱口市川
孫入正教 静穂 守廣 義昭 道治
中島道治

苦情解決受付担当者
萱間徳雄
久保悟
竹村由香里
後藤典郎
鹿尾辰文
阪部保

第三者委員

天理教三重互助園

苦情解決責任者
苦情解決受付担当者
孫入静穂
山路英子
笠井一希
瀬戸義昭
西川恒夫
島原弥生
有馬妙
木佐貫美和
阪口千晴
森美奈理
池田由企
児玉葉月
保育士(天理教三重互助園)
保育士(天理教三重互助園)
保育士(天理教三重互助園)
児童指導員(天理養徳院)
調理員(天理養徳院)
保育士(めばえ横浜保育園)
松舟涼子
保育士(天理養徳院)
保育士(天理教三重互助園)
保育士(天理教三重互助園)

平成二十一年四月一日付採用者

児玉葉月
保育士(天理養徳院)
保育士(天理教三重互助園)
保育士(天理教三重互助園)
保育士(天理教三重互助園)
保育士(天理教三重互助園)
保育士(天理教三重互助園)
保育士(天理教三重互助園)

生活品等寄贈(敬称略)

小田綾人・佐藤三朔、株式会社チユチユアン
ナ上田利昭、国光分教会藤並正信、群南心
分教会、大三島分教会、南陽分教会、日本ス
ポーツ用品協同組合連合会 小関和夫、松島
正教、奈良県農業協同組合 中出篤伸、株式
会社ルミカ「アウトレット商品寄贈係」、松島
とみ子、株式会社創成社 塚田尚寛、日本鏡
餅組合 横口元剛、株式会社三菱東京UFJ
銀行、奈良県教育公務員弘済会 財團法人
毎日新聞大阪社会事業団、資生堂アメニティ
グッズ株式会社 三浦志郎 財團法人資生
堂社会福祉事業財団 内田隆文、三井住友海
上保険株式会社 総務部地球環境・社会貢献
室

寄付金(敬称略)

宗教法人天理教、伊藤晴男、東中央大教会、

高倉ユキ、丸上理一、鏡川分教会、西川広海、

西川宏二、河野武一、龍和分教会 小林靖彦、

婦人会東支部、大樹の会、寺川フジ子、堀新

分教会 天理あすなろ、柴田真喜子、大和御

幸分教会、藤田糸代、兵神大教会、兵神詰所、

明心大和分教会、川之江大教会、萱島榮子、

境町分教会、森原隆太・久美子、本導德分教

会、植田泰生、寺川常美、奈良県共同募金会



人事

天理養徳院長

退任(平成二十二年四月三十日)

宮崎瀧

就任(平成二十二年五月一日)

中島道治